

令和7年度 東京都立日比谷高等学校 学校経営計画

校長 萩原 聡

1 目指す学校像 『知の日比谷』をスローガンに文武両道の理念、良き伝統及び自主・自律の校風を継承・発展させ、生徒一人一人のもつ個性や能力の十分な伸長を図り、グローバル社会の中で21世紀を逞しく切り拓くリーダーを育てる。 また、東京都教育委員会指定「進学指導重点校」として、意欲と活力に満ち、使命感をもった教職員の一致協力した学校運営に努め、都立高校を代表する骨太で重厚な進学校としての教育活動の充実を図る。 生徒は、学習・学校行事・部活動等に主体的・積極的に取り組む中で、集団への帰属意識や他を思いやる心を持ち、互いに高め合う集団づくりを目指す。 教職員も、学校経営計画のもとにベクトルを一致させ、生徒の学力向上・自律的な生活態度の育成・希望進路の実現に向け、専門職集団として協働する。	3 スクール・ポリシー (1)グラデュエーション・ポリシー 次のような人材を育成する。 ・自らの高い専門性と資質・能力をいかんなく発揮しながら自己実現を図る人材。 ・グローバル・リーダーとして組織のメンバーの良さを引き出しながら、新たな知や価値を創造する人材。 ・社会の課題に対し、積極的に取り組み、人類に貢献する存在として活躍する人材。 ・失敗を恐れずに何事についても挑戦を続け、将来において、成長し続ける人材。 (2)カリキュラム・ポリシー 生徒間の対話を通して考えさせ、表現させる授業や新たな気づきや発見のある授業場面を通して、積極的に自ら学びに向かって深く掘り下げることにより、多様な場面に対応が可能である普遍的な知識を獲得できる生徒を育てる。 (3)アドミッション・ポリシー 自律的人格を育成し、幅広い教養と高い学力を目指し、誠実に努力する決意を有する生徒、また、論理的な思考力や考察力、自分の意見を的確に表現する能力を有し、将来の進路選択について、明確な目的意識をもって本校への入学を志望する生徒を求める。
2 スクール・ミッション 「自律的人格」「学習と教養」「責任と協調」「心身の健康」「文化と平和」を教育目標に、自主自律、文武両道の精神を貫くとともに、学問の本質に触れる楽しさや知的好奇心を喚起する様々な取組を行い、21世紀を逞しく切り拓くグローバル・リーダーとして活躍する人材を育成します。	

観点	4 中期的目標と方策	5 今年度の目標と方策、数値目標（太字が今年度の重点目標）
学 習 指 導	(1) 質の高い授業を創造することで、自ら学ぶ生徒を育て、学問の本質を探究できる姿勢を培う。 ア 生徒間の対話による学びをすべての教科・科目で、次の5段階を意識して、一層推進する。 ①考えさせる ②考えたことを表現させる ③他者の考えを聞く ④自己の思考を深める ⑤新たな気づきを得る イ 集団で学ぶことの喜びや意義を見出し、教科間の知識を関連させ、深い学びへとつなげることのできる生徒を育てる。 ウ 生徒の科学的思考力、創造力、判断力を高める授業づくりに努める。 エ すべての教科において、一人1台端末等ICT機器の効果的活用を図る。 (2) これまでに確立した教科マネジメントを継承・発展させ、組織的に生徒の学力向上を図る。 ア 「主体的・対話的で深い学び」の実現へ向け、授業での「集団での学び」と講習での「個での学び」とのバランスをとり、「新たな時代に求められる思考力・判断力・表現力」と「大学入試で求められる教科学力」との育成の在り方を教科として盤石にする。 イ 日常的な生徒の取組状況、定期考査・実力テスト・外部模試等の分析結果や生徒による授業評価結果から学校として必要な取組観点を明らかにし、授業、日常の補習、土曜講習、長期休業日中の講習、3学年特別時間割による講座等を学校として発展させる。 (3) 進学指導重点校、SSH指定校、GE-NET20指定校として、本校の特色を活かした学習活動を推進する。 ア 広い教養の土台の上に、大学での専門分野において大きく伸びることができるよう、さまざまな教科・科目を履修する教育課程を編成・実施することで、国公立大学の個別試験にも対応できるようにする。 イ 教育活動全般を通して、オリンピック・パラリンピック・レガシーとして、グローバル・リーダー育成を継続する。 ウ SSH指定校として、科学的思考力向上を目指した教育を全教職員で実施する。 (4) 3観点に基づくルーブリック評価を全教科で策定し、実施する。	【目標】「質の高い授業の創造」と「教科マネジメント」の充実を図る。 【方策】 1 生徒間の対話を通して、考え・表現させる授業を、すべての科目において実践する。その際、一人1台端末等ICT機器の効果的活用も図る。 2 集団で学び、新たな気づきや発見のある授業を通して、自ら学びに向かい深く掘り下げることのできる生徒を育てる。 3 当該学年の教科チームとして、同一科目において、授業内容・授業進度をそろえ、定期考査問題の完全共通化を継続する。生徒の成績推移や実態を把握し、「課題・補習・面談」を通して、基本的な学力の維持・向上を図る。また、実態を踏まえた日常の補習や長期休業日中の講習を実施する。 4 教務部の進行管理のもとに、年2回の「生徒による授業評価」結果を教科として分析し、学校として生徒へ文書でフィードバックし、生徒と教員とでよりよい授業づくりを目指す。また、教員間で年間を通して相互に授業を参観し合い、良さを共有する。 5 11月に探究活動に関する校内研修会を実施する。全教員共通理解のもとで「理数探究基礎」に取り組むことで、内容の改善・充実させ、より効果的に実施する。また、2年「理数探究」、3年「理数探究発展」を充実した内容で実施する。 6 全学年で、3観点に基づくルーブリック評価について実施する。 ア 教務部と3学年・教科主任会・進路指導部が連携して、3学年特別時間割の講座設定について共通理解を図り、組織的・意図的に実施する。 【数値目標】（ ）内は前年度 ・学習指導に対する生徒肯定割合85%以上（83%） ・R8「理数探究」履修希望者数40名（R7履修者28名） ・R8「理数探究発展」履修希望者数10名（R7履修者8名）
生 活 指 導 ・ 健 康 づ く り	(1) 生徒に寄り添う指導、生徒と向き合う指導を通して、自律的な生活態度の育成を図る。 ア あいさつ、身だしなみ、時間・私物管理、集団生活におけるマナーなど、教職員全員による一致した指導を行う。 (2) 生徒の健康づくり、体力向上、安全管理、環境美化を徹底する。 ア 学校保健計画に基づき、保健管理・保健教育を適宜適切に実施する。 イ 教育職員と行政職員とが連携して、安全管理・環境美化に努める。 ウ 生徒会や委員会など、生徒に当事者としての意識をもたせ、生徒自らの取組を一層充実できるように支援する。 エ 体育実技の授業、運動部活動、体育的行事の実施を通して、生徒の基礎体力の向上を図る。 オ 学校いじめ対策委員会を定期的に開催し、いじめのない学校づくりに努める。	【目標】全教職員が「生徒に寄り添い、生徒と向き合う指導」により、自律した生徒を育成する 【方策】 1 けじめ・メリハリのある授業規律・生活規律を確立するため、リーダーとしてふさわしい身だしなみ、時間・私物・貴重品管理・SNSの適切な利用を重点に、全教職員で生活指導にあたる。 2 全校集会・学年集会やホームルームを通して、望ましい学校生活について生徒に考えさせる指導をするとともに、家庭及びPTAとの連携を図る。 3 年間を通して、生活指導部、学年、経営企画室とが連携し、タイムリーかつ確実な環境整備を行う。 4 スクールカウンセラーを活用し、生徒の心のケアなど教育相談機能の充実を図る。 5 必要に応じて学校いじめ対策委員会やケース会議を開催し、心のケア等について迅速に情報共有するとともに、的確に対応する。

観点	4 中期的目標と方策	5 今年度の目標と方策、数値目標（太字が今年度の重点目標）
進路指導	(1) 最後まであきらめさせない進路指導を貫く。現役で希望する大学への進学を実現させる。 (2) これまでの進学指導マネジメントシステムをより一層充実・発展させる。 ア 進学指導検討会(入学者選抜の結果、定期考査、実力テスト、外部模試等の結果を分析した校内会議)、学年ごとの拡大進路部会、3年生の出願指導を主眼とするケース会議、系統的な進路調査、二者・三者面談等を実施し、個々の生徒を励ます指導を行い、3年間を通して生徒の進路意識を高くもたせる。 イ 生徒の入学時から卒業までの成績推移等の個別データを全教員で共有し、担任、教科担任、部活動顧問などそれぞれの関わりの中でデータに基づいた励ましの指導を行う。 (3) 教科と進路指導部が連携し、授業・土曜講習・長期休業日中の講習を効果的に実施する。 (4) 学習支援クラウドを活用し、大学入学選抜の主体性評価に向け、生徒が「振り返り」を行い、「見通し」をもって学びを進めていくことができるようにする。 (5) 海外大学への進学指導に向けた校内体制を整える。	【目標】卒業時に生徒が希望する進路実現を果たす 【方策】 1 進路指導部と学年とが連携し、学年集会、個人面談等を活用し、生徒の高い志を堅持させ、第一志望を貫き、現役合格を達成させるように粘り強い指導を行う。 ア データベース等により生徒情報を共有し、担任・教科担任・部活動顧問等があらゆる場面で励ます指導を行う。 イ 年2回の進学指導検討会後に、教科会を開催し、具体的な学習指導対策を、進路指導部とともに検討し実施する。 ウ 実力テストの実施にあたって、作問レベルや実施後の状況について全教職員で共有する。 エ 3年生の成績データに基づいたケース会議を年2回開催し、個別指導や出願指導等で活用する。 2 医学部医学科への進路希望実現に向けた対応を継続する。 3 海外大学進学希望者への説明会等を充実させ、実施する。 【数値目標】 ()内は前年度 ・難関4国立大学及び国公立医学部医学科の現役合格者 115人以上 (122人) ・難関3私立大学の現役合格者 330人以上 (332人) ・国公立大学の現役合格者 160人以上 (167人) ・大学入学共通テスト5教科の総合得点率80%以上の人数 211人以上 (211人) ・大学現役進学率 70%以上 (78.0%)
特別活動	(1) 文武両道の理念のもと、特別活動の一層の充実を図る。 ア 部活動への加入を奨励し、高い部活動加入率を維持する。 イ 学校行事の一層の充実を図る。(体育大会、合唱祭、星陵祭の実施を通して、帰属意識の高揚を図る) ウ 生徒会活動・委員会活動の一層の充実を図る。(生徒の活躍の場を拡大する) (2) 読書活動を推進する。 ア 生徒個人の資質を高め、また授業や学校行事などを支える図書を薦め、図書館利用を推進する。 イ 図書館の利便性を高める環境整備を行う。 (3) コロナ後の状況を踏まえた、SSH事業、GE-NET20事業を計画実施する。 ア GE-NET20事業、海外学校間交流における海外研修の内容を充実させ実施する。 イ オンラインを活用した海外との交流を継続実施する。 ウ 全生徒を対象にグローバル事業を実施する。	【目標】「文武両道」を奨励し、生徒の帰属意識を高める。 【方策】 1 体育大会・合唱祭・星陵祭を通して、全校生徒の成就感や達成感を高める。 2 生徒会活動・委員会活動を支援し、生徒自身の自主的・自律的な活動を充実させる。 3 部活動指導員らとの連携を図り、部活動を活性化し、加入を奨励する。 4 校外伝統行事を卒業生の支援を受けながら、実施していく。 5 全生徒がSSHやGE-NET20などグローバル部の事業に関わり、その成果の還元を受けられる取り組みを推進する。 ア オンライン英会話、メキシコ大使館との交流など様々な活動を通して、グローバルな視点をもつ生徒を育てる。 イ アメリカ海外派遣研修や姉妹校交流など海外との充実した交流を継続実施できる体制を整える。 【数値目標】 ()内は前年度 ・学校行事に対する生徒肯定割合 90%以上 (87%)
募集・広報活動	(1) 「高い志と高い学力を備え、本校を理解した上で第一志望とする生徒」の入学に向け、募集・広報活動を工夫・改善する。 (2) 学校説明会・学校見学会の工夫・改善、学校ウェブサイトの充実を図る。 (3) 在校生による中学校訪問、塾対象説明会、入学相談会を実施する。 (4) 海外在住者、都外在住者への募集・広報活動を、総務部が組織的に対応する。	【目標】「本校の教育を理解した第一志望とする生徒」の入学を進める。 【方策】 1 学校説明会・学校見学会、授業公開等、本校の教育活動を公開する機会を充実させる。 特に、生徒会外務委員会との協力体制を継続し、生徒の視点からのPR活動を行う。 2 小学生とその保護者を対象とした学校説明会をより一層充実させる。 3 海外及び都外在住者向けの相談窓口を継続実施する。 4 生徒の活躍(行事、部活動など)や各分掌が所管する内容をタイムリーに学校ウェブサイトへ掲載する。
学校経営・組織体制	(1) 企画調整会議の機能を一層強化する。(学校経営方針の理解浸透と意見聴取の双方向性) (2) 学校運営体制を整備する。 ア 週1回の分掌部会を充実させ、TAIMS端末・都立学校ファイルサーバを活用して、情報を迅速・確実に共有する。 イ 教科主任会及び教科会を充実させ、教科間の連携を一層進める。 ウ 校内研修を充実させ、質の高い授業づくりを目指した校内研修や進路希望実現に資する校内研修を実施する。 (3) 教職員一人一人が高い倫理意識をもち、法規法令を遵守する。 (4) ライフ・ワーク・バランスの推進に向け、業務縮減を進める。 (5) 経営企画室の学校運営への参画を一層進める。 ア 適切な窓口・電話対応 イ 適切な予算執行 ウ リスク・マネジメントの強化 エ 行政職員による提言	【目標】PDCAマネジメントサイクルの実働化による組織的な学校運営体制をより一層推進する。 【方策】 1 企画調整会議と分掌部会との双方向性を維持する。 ア 企画調整会議と分掌部会との双方向性を継続することによって、全教職員の情報共有や経営参画を進める。 イ 学校経営上の課題について横断的に検討し、必要に応じて分掌等に働きかけ、教育活動の改善や新規事業の提案等を行う。 2 教科主任会及び教科会の充実とともに教科間の連携を図る。 ア 教科ごとの学力分析・課題の把握・優れた実践の共有を進め、学習指導へと反映させる。 イ 教科として組織的な補習・講習の企画・立案・実施を進める。 ウ 教科間の連携を一層強化し、バランスのとれた指導体制を整える。 3 各分掌が学校経営計画に基づき組織目標設定、中間総括、年度末総括を実施し、学校運営連絡協議会に報告する。 4 服務事故ゼロを達成し、生徒・保護者の信頼を確立させる。 特に体罰や不適切な指導を絶対に生じさせない。 5 経営企画室による教育活動の支援を進める。 ア 来校者等への丁寧な接遇を行う。 イ 計画的・効率的に予算執行する。 ウ 施設設備の定期的な安全点検・安全管理及び迅速な修繕を徹底する。 エ 行政職員から見た教育活動等への提言を行う。 6 創立150周年事業に向けて、委員会を設置し、PTA・同窓会等と連携し、準備を進める。 7 常に業務の見直しを心掛け、業務縮減に努める。